

左京区一乗寺、修学院エリアの 飲食店や商店を会場とした音楽フェスについて

活動場所：左京区

活動時期：平成 27 年 4 月～

発表団体

一乗寺 DOP 実行委員会



連携メンバー

実行委員会（地域住民） 京都精華大学
制作スタッフ 京都府外の地域団体
地元商店
地域の学生有志

活動内容

年間を通じて、「音楽」「人」「地域」が三位一体で相互に作用しつつ、関わった事柄が「HUB(接点)」になることを心がけて活動を行う。

「地元住民」と、学生や転入層の「地域住民」は接点がない。そこで、飲食店で知り合った様々な属性（世代、職種問わず）の人々の特性・趣味趣向を、店主たちや地域的な「音楽的な見識」と掛け合わせて音楽フェスを行うことになった。

例えば「神輿」と「学生」は接点がない、「A 店」には行くけれど、「B 店」には行ったことがない等、同じ地域に存在しながらも交わることがなかった属性の人々をそれぞれの要素や特性に実行委員会がコミットすることで、「音楽」という感動や感覚の伝達スピードが早く、広く受け入れやすい、それ自体の存在意義も近年再興されつつ「消費対象としての音楽」とは違った形で地域に受け入れられるという、三方よしの意識を常にもって事業を展開。

取組の成果・活動で工夫した点

商店同士や顧客の交流を促すため、あえて、会場を巡回する方式の音楽イベントを企画した。

2 年目からは、1 年目に築いた繋がりをういて「神輿行事」に接点が無かった大学生とともに参加した。また、定期的な「清掃活動 = Ichijyoji Clean-up Action」を実施し、草の根で活動していることを PR するとともに、物理的に地域貢献する方法を確立。

3 年目の本年度は、「一乗寺 .net」サイトを開設。地域住民が制作を担い「インターネット上の仮想アーケード」として、地域情報サイトを運用。

フェス会場店舗だけでなく、個性的な地域商店の魅力、地域住民の特徴、音楽事業に参加した著名ミュージシャンの情報を混在させ、同一サイトで紹介することで、地域の新しいブランディングを行なった。

実行委員会内で内容を確定して業務を委託するというよりは、関わりがある「人」や「地域」のニーズ、および専門性や興味を軸に参画を促し、参加者の個人的な欲求の実現や、新しい機会の創出に念頭をおいている。

個人の課題（イベントの集客、アルバイトの募集、探し物など）から、クライアントの発見（デザイン業や、個人クリエイターへの発注）、「地元住民」へのサポート（広報支援、人手、清掃活動）もまとめることによって、新たな関係性を築き、旧来「商店街」に存在していた機能であるところの「寄合所」のような存在を目指している。

連携メンバー・役割

実行委員会（地域住民）	年間事業の企画・運営
制作スタッフ	デザイン・写真・音響などの技術提供、企画のアドバイス・アイデア提供
地元商店	企画会場としての参加・人的リソースの提供・平時のコミュニケーションの場の提供
地域の学生有志	運営・展示企画への参加
京都精華大学	年間を通じての企画の共有、ゼミ単位での地域への参画
京都府外の地域団体	ノウハウやアイデア、人的 / 知的リソースの共有

今後の課題・目標

◆今後の課題

現在の人的・知的リソースを上回る機関や人との接触を図り、「一乗寺 DOP」の活動に興味・関心を持ち、まずは、当地域にコミットしていただける体制づくりが必要である。

また、学生のみならず、個人クリエイターなど、興味をもつ層に積極的に参画してもらおう仕組みづくり（マネタイズ）なども外部の意見やノウハウをとりいれて、今後はより一層主体事業への参画者を増やし、さらそれをアウトプットし、関わった個人が経験だけではなく、生活の基礎として活かせるような土台を 4 年目にあたる次年度は構成したい。

◆目標

実行委員が愛してやまない「音楽」。一乗寺界限という愛する「地域」。地域に住まい関わる多種多様な愛すべき「人」。

それらを一乗寺という「街」が有する既存の要素や、さらには独立して活動を行う外部からのゲストとともに事業に取り組み、街の色としての「音楽」やそれぞれの取組が、いつのまにか、「街の日常の景色」として馴染む、さらに多種多様な人々が関わり広がり続ける接点になることを目標としている。

特に、地域に近い芸術系大学の学生の活動や表現の機会の受け皿として、学内のプロジェクトとは異なる「人的つながり」を提案したい。

